

第6回全国自給飼料生産コンクール審査結果の概要

〔農林水産大臣賞〕

(放牧部門)

出品者氏名	県名	出品財(放牧)		家畜飼養頭数(年平均頭数)					飼料作物作付面積(ha)			労働力(人)	平均分娩間隔	平均産次
		草種	実面積(ha)	品種名	成牛	育成牛	子牛	計	採草地	放牧地	計			
石田 幸也 石田 美由紀	北海道	チモシー・ケンタッキーブルーグラス・ペレニアルライグラス・ホワイトクローバー	55.0	ホルスタイン	51	10	6	67	20.0	55.0	75.0	家族 3 雇用 0	カ月 15.4	(産) 2.7
		計		55.0	5,490 kg	4.17 %	1.95%	100.0%	(100%)	計 3	TDN自給率	年間乳量		
		計	55.0	5,490 kg	4.17 %	1.95%	100.0%	(100%)	計 3	100%	279.1 t			
経営の概要	<p>石田牧場は北海道のオホーツク海に面した枝幸町にあり、牧場は平坦な土地条件下で放牧を中心とした酪農経営を営んでいる。</p> <p>石田氏は、酪農ヘルパーに従事した後、平成7年に現在地に入植し、放牧酪農による営農を目指していたが、当時、北海道の酪農経営は規模拡大と通年舎飼が主流であったことから、地域の組織から放牧技術指導はほとんど見込めなかったため、先進事例の視察や行動観察による研鑽など試行錯誤を繰り返しながら放牧技術を確立してきた。</p> <p>牧草地75haを放牧地、採草地、放牧採草兼用地に大区分し、放牧採草兼用地は1番草収穫後、2番草収穫後に放牧地として利用している。飼料給与体系は放牧とグラスラップサイレージの組み合わせとしており、放牧方式は昼夜放牧で、放牧期間は5月～11月中旬までの195日である。放牧地内には、防風林を兼ねた林地を整備しており、日陰林として家畜に優しい環境に配慮している。</p> <p>地域の気象条件は、積雪が早く土壌凍結が弱いため、この地域には放牧専用種であるペレニアルライグラスの定着が極めて良いという特性に着目し、既存草地を追播によりペレニアルライグラスの主体の放牧地へと改良を進めている。</p> <p>また、環境保全に対する意識が高く、入植当初から自然循環型農業の確立を目標としており、家畜ふん尿は固液分離している。尿は一次槽、二次槽でばっ気した後、春と秋の年2回草地へ散布し、ふんは年6回に渡る切り返し作業により堆肥化し、生産した堆肥は全て草地へ還元している。併せて、牛舎に滑り止め用として毎日、炭カル40kgと衛生対策として週2回の消石灰を散布しており、ふん尿に炭カル・消石灰が加わることで堆肥化の促進と同時に草地の酸性化矯正の役割も果たしている。</p> <p>このことは、草地への施肥を極力抑制し、無化学肥料による自給飼料を生産するという高い志に繋がっており、この方法により化学肥料の投入を0にしているから、既に14年もの年月が経過している。</p> <p>飼料の給与については、放牧中心の経営を一層進めるため、濃厚飼料の給与を徐々に減らしており、4年前からは濃厚飼料を給与しない完全自給型の酪農経営方式を実践している。まさに、従来からの考え方を一新する画期的な生産方式である。</p> <p>この様に無化学肥料と無濃厚飼料による酪農経営を行うことにより、生産コストは生乳1kg当たり30円台(30.6円)の超低コストを達成するとともに、収益性は所得率68%を確保するなど、従来の酪農経営の常識を超えた経営と考えられる。</p> <p>後継者対策については、現在、長男が後継者候補として経営を手伝いながら各地で行われている研修会、交流会に積極的に参加しており、長男が30歳(現在は26歳)となる4年後に経営を移譲する契約を結ぶなど、将来にわたって安定的な経営が期待できると考えられる。</p> <p>また、地域との関わりについては、中山間地域等直接支払制度の枝幸集落の代表、集落の農業地域協議会会長を務めている。加えて、放牧経営の視察と情報交換を目的とした「もっと北の国から楽農交流会」の代表を10年以上続けるなど、放牧の推進についても積極的に活動を行っており、地域農業への貢献度は極めて高い。</p>													

【農林水産省生産局長賞】
(飼料生産部門 酪農経営)

出品者氏名	県名	出品財(飼料作物)		家畜飼養頭数(年平均頭数)				飼料作物作付面積(ha)			労働力(人)	平均分娩間隔	平均産次	
		草種	実面積(ha)	品種名	成牛	育成牛	子牛	計	採草地	とうもろこし				計
(有)ハッピーネス ホルスタインズ 取締役 嶋木 潤	北海道	チモシー	3.05	ホルスタイン	101	58	8	167	80.0	25.0	105.0	家族 5 雇用 0	ヵ月 13.9	(産) 2.8
												計 5	TDN自給率	年間乳量
				経産牛1頭当産乳量		乳脂率		乳飼比	粗飼料自給率(土地利用)					
		計	3.05	9,123 kg		3.99 %		30.3%	101.0	(100%)		49%	967.0 t	
経営の概要	<p>(有)ハッピーネスホルスタインズの経営は家族5人で行っているが、御両親は搾乳部門にのみ携わり、畜産経営は夫婦と長男の3人で行っている。このハッピーネスホルスタインズと隣接して、乳製品の販売等を行っている6次産業部門の(有)ハッピーネスデイリーを御両親が経営しており、(有)ハッピーネスホルスタインズとは別会社ではあるが、牧場から出荷された生乳が買い戻される形で連携している。</p> <p>出品された草地はチモシー、オーチャードグラス、シロクローバーの混播草地で、雑草の少ない良好な状態で維持されている。これは、雑草発生の要因の一つとして考えられる堆肥を草地には還元せず、トウモロコシ畑にのみ散布する手法を採っているためである。牧草の収穫量は約3,800kgと北海道の平均収量よりも10%程度多く、サイレージの品質も極めて良好である。採草地80haのうち56haが借地であるが、粗飼料自給率を100%にしたいと考えていた時に、離農した農家から草地管理委託の申し入れがあり、思惑が一致したことから粗飼料自給率の向上が可能となり、また、休閑地対策としても土地の有効利用を図っている。</p> <p>トウモロコシの作付については、倒伏防止対策として播種前にケンブリッジローラーによる鎮圧作業を3~4回行った後、不耕起播種を実施している。</p> <p>また、近年は北海道へも台風等の大雨被害が増えるようになり、この影響からトウモロコシ倒伏の被害が見られている。池田町にはコントラクターがないことから、台風等の襲来が予想されるとき、周辺農家のトウモロコシ収穫作業を受託する「緊急コントラクター」として支援する活動を行っており、地域へ大きく貢献している。</p>													

【農林水産省生産局長賞】
(放牧部門)

出品者氏名	県名	出品財(放牧)		家畜飼養頭数(年平均頭数)					飼料作物作付面積(ha)		労働力			
		栽培品種	実面積(ha)	品種名	成牛	育成牛	子牛	肥育	合計	野草地	入会地	男	女	雇用
井 博明	熊本県	野草	8.0	あか牛	19	4	11	57	91	8.0	215.0	2人	人	人
		チモシー・オーチャードグラス・ヘレニアルライグラス・トルフェスク	改良草地90ha 野草地125ha	平均産次数(産)	平均分娩間隔(ヶ月)	平均肥育出荷月齢(ヶ月)	肥育牛1日当たり増体重(kg)	粗飼料自給率	肥育牛自給率	土地利用				
				4.3	14.6	24.5	0.82	100%	35%	100%				
		計	223.0											
経営の概要	<p>池山牧場のある産山村は阿蘇外輪山と九重山麓が交わる高原地帯に位置し、古くから「あか牛」の放牧が盛んに行われてきたが、近年、離農や黒毛和種への経営転換により当該地域であか牛を飼育している農家は極わずかとなっている。そのような中、井博明氏は「あか牛」生産一筋に経営を行っている繁殖、肥育一貫経営農家である。</p> <p>「牛は草で育てる」を基本理念とし、自己有地と入会地である共同牧野を繁殖牛の放牧地として、また、肥育牛の粗飼料生産基地として利用しているが、このことは歴史を誇る阿蘇地域の自然景観の保全に大いに貢献している。共同牧野における作業については、設立当初の組合員数より減少しているものの、組合員の出役による野焼き、有刺鉄線等の補改修、肥料散布、収穫作業等を継続して行っており、出役費用とロールバール購入費を相殺した料金体系を採用している。共同牧野は12戸で管理していることから、一人当たりでは18haの草地を所有している計算であり、粗飼料自給率は100%を達成している。</p> <p>繁殖牛は夏山冬里方式の親子放牧を4月下旬から12月中旬までの240日間行っており、飼料は乾草と2kg/日の配合飼料を給与している。</p> <p>肥育牛は肥育中期まではサイレージを中心とした粗飼料多給型の飼育による高品質のあか牛生産であり、ブランド牛肉としてデパート等に販売している。</p> <p>また、農家民宿やレストラン2店舗を経営する等、6次化部門の経営も行っている。</p> <p>なお、肉用牛経営単独での所得は低いが、これは経営が多岐にわたっているため、肥育部門は井博明氏が管理し、繁殖部門は息子の俊介氏に任せ、レストラン産山村店は奥様・娘さんに、2号店(熊本市)は親戚に委任する等、信頼できる関係者に手腕を託す等大きな視点により経営を実践している。</p>													

[農林水産省生産局長賞]
 (飼料生産部門 飼料生産組織)

出品者氏名	県名	出品財(飼料作物)		受託農家戸数	飼料作物の単収(kg/10a)			労働力				
		栽培品種	実面積(ha)		イタリアンライグラス	エン麦	イタリアン・エン麦混播	男	女	雇用		
株式会社 肝付アグリ	鹿児島県	イタリアンライグラス	101.0	畜産農家 2戸	2,800	3,000	2,600	5人	人	3人		
		エン麦、スーダングラス、WCS稲	202.0	畜産農家以外 68戸	スーダングラス	WCS用稲					作業全般	収穫作業補助
		計	303.0	合計 70戸	3,600	3200						
経営の概要	<p>株式会社肝付アグリは、大隅半島東部の肝付町を中心に水稻農家、さつまいも農家と連携し、受託した300haを利用して飼料作物の作付・収穫・調製を行うコントラクターで、生産したラップサイレージは地域の農協が運営するTMRセンターに販売している。TMRセンターに搬入されたラップサイレージは、地域の畜産農家へTMRとして販売されている。</p> <p>栽培面積300haのうち、イタリアンライグラスが100ha、残りの200haをエン麦、スーダングラス、WCS用稲でおおよそ均等に作付し、また、当該地域の気象条件に合致した品種選定をしている。収穫に当たっては「不耕起三毛作体系」という先進的な生産技術を実践し、自給飼料生産検討会等で紹介する等、技術の普及を図っている。なお、地域で生産された牛ふん堆肥や豚ふん堆肥を活用し、良質な土づくりや高品質な自給飼料生産に努める等、資源循環型農業にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>特筆すべき点としては、都府県においては品種の選定や播種時期は農家が行い、収穫作業のみをコントラクターが請負う形態が一般的であるが、肝付アグリは播種する品種や播種時期の調整までも行っていることや農研機構九州沖縄農業研究センターとの連携、アグリノートといったほ場管理のためのICTを活用し、従業員間の情報共有を図るなど、効率的かつ省力的な生産管理を行っている。</p>											